

2018年度第2回札幌競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 富良野特別

富良野（ふらの）は、北海道中央部の市。観光産業が盛んで、特にラベンダーが有名。夏には、JR 北海道富良野線に臨時駅「ラベンダー畑駅」が開設され、見渡す限り一面のラベンダー畑を楽しむことができる。

○ 札幌日刊スポーツ杯

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の北海道版を発行している、北海道日刊スポーツ新聞社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 石狩特別

石狩（いしかり）は、石狩川河口にある北海道中西部の市。また、北海道にあった旧国名。現在の石狩振興局管内に相当する。サケなどの漁業が盛んで、サケの身やアラを用いた郷土料理である石狩鍋が有名。

<第2日>

○ クローバー賞

クローバー（Clover）は、ヨーロッパ原産のマメ科の多年草の総称。四つ葉のものは幸福のシンボルとされ、五つ葉は金銭の幸福を、六つ葉は地位・名声を手に入れる幸福を、七つ葉は最大の幸福を意味する。四つ葉の花言葉は「幸福」「私のものになって」。

○ おおぞら特別

おおぞらは、広く澄みきった空のこと。また、JR 北海道が運行している特急列車の呼称。昭和 36 年に函館駅と旭川駅を結ぶ北海道初の特急列車として運行を開始した。現在は、「スーパーおおぞら」の名で札幌駅と釧路駅を結んでいる。

○ サマー2000シリーズ札幌記念（GⅡ）

サマー2000 シリーズの第4戦。

本競走は、昭和 40 年に創設された重賞競走。44 年以降、3 歳以上のダート 2000m、ハンデキャップ競走として実施されていたが、芝コースの新設により、平成 2 年から芝 2000 mに変更された。9 年には札幌と函館の開催日割が入れ替わったことにより、実施時期が 6 月から 8 月に移され、負担重量が別定重量となった。18 年には負担重量が定量に改められ、現在に至る。

○ 小樽特別

小樽（おたる）は、北海道西部石狩湾に臨む市。名は、アイヌ語の「オタオルナイ（砂浜の中の川）」に由来する。現在は、大正時代に完成した小樽運河やその両岸に並ぶ煉瓦の倉庫がレトロな雰囲気を出しており、多くの観光客が訪れる。

<第3日>

○ 積丹特別

積丹（しゃこたん）は、北海道西部、日本海に突出する半島。また、同半島先端部を占める町。名は、アイヌ語の「シャクコタン（夏の村）」に由来する。沿岸一帯はニセコ積丹小樽海岸国定公園に属する景勝地。古くから漁業が盛んで、北海道を代表する民謡「ソーラン節」の発祥地と言われている。

○ ニセコ特別

ニセコは、北海道西部の地名。ニセコアンヌプリの南、羊蹄山の西側の地域をいう。世界でも有数のスキーリゾート地で、海外からも多くの観光客が訪れる。

<第4日>

○ 千歳特別

千歳（ちとせ）は、北海道の中南部、石狩平野の南端の市。市の中央部には新千歳空港が、西部には国立公園支笏湖がある。

○ サマースプリントシリーズキーンランドカップ（GⅢ）

サマースプリントシリーズの第5戦。

本競走は、平成8年にオープン特別競走として創設され、競走条件や距離の変更を経て、18年よりGⅢに格付けされた重賞競走。

キーンランド競馬場は、アメリカ合衆国ケンタッキー州レキシントンにある競馬場で、周辺は馬産地として世界的に有名。同競馬場では競馬開催のほか、年数回サラブレッドのセリ市も行われている。27年には同競馬場史上初めてブリーダーズカップが開催された。

<第5日>

○ 札幌スポニチ賞

スポニチは、スポーツニッポン新聞社が発行しているスポーツ紙。スポーツニッポン新聞社は、東京・大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、『北海道3歳ステークス』の名称で昭和41年に創設された重賞競走。58年に『札幌3歳ステークス』に改称された。当初は、ダート1200mの競走として実施されていたが、芝コースの新設により芝1200mに変更され、平成9年には距離が1800mに延伸された。

○ 日高特別

日高（ひだか）は、北海道の旧国名のひとつ。現在の日高振興局管内に相当する。国内有数の軽種馬生産地として世界的にも知られている。管内の浦河町には、JRAの競走馬育成調教施設である日高育成牧場があり、育成調教技術の普及に努めている。育成された競走馬は主にJRAブリーズアップセールで売却され、JRA育成馬としてデビューする。

<第6日>

○ すずらん賞

すずらんは、ユリ科の多年草。中部地方以北の本州や北海道に自生し、高さは15～25cm。初夏に花茎を伸ばし、白い釣鐘形の小花を総状につける。札幌市の花にも選ばれている。花言葉は「純粋」「幸運が戻ってくる」。

○ 丹頂ステークス

丹頂（タンチョウ）は、ツル目ツル科の鳥。「丹」は赤色を意味し、頭頂部が赤いことから丹頂と呼ばれており、北海道の道鳥に指定されている。大正13年には約30羽まで減少したが、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定され、環境省をはじめとした保護活動の結果、平成26年には1,500羽超の生息が確認されている。

○ 釧路湿原特別

釧路湿原（くしろしつげん）は、北海道東部、釧路市の北側に広がる約20,000haの面積を誇る日本最大級の湿原。昭和55年に日本初のラムサール条約登録湿地の指定を受けた。一帯が釧路湿原国立公園に指定されており、タンチョウ（丹頂）の生息地としても有名。